

臨床検査部  
臨床検査技師 (入職1年目)

みなもと  
**峰 基樹**

臨床検査技師の仕事は、迅速且つ正確な検査結果を出して、医師の診断の補助を行うことです。「検査のプロ」としてチーム医療に貢献できることに大きな魅力を感じています。

趣味は、アウトドア好きの同期の影響で始めたキャンプ。初任給でテントなどのキャンプ道具一式を揃えました! 焚き火を見ながら食を食べたり星を見ながらお酒を飲んだりできることがキャンプの醍醐味! みなさんも始めてみてはいかがでしょうか?



医事課 (入職1年目)

ののむらみな  
**野々村 美音**

身近に医療関係者がいることから、病院で働くことに興味を持ち、入職しました。さまざまな部署を経て経験を積み、将来的にはオールマイティにこなせる職員になるのが目標です。

マイブームはお菓子作り! 作る過程はもちろん、オープンから香る焼き上がりの甘い匂いが好きで、幸せな気持ちになれます。最近ハンドブレンダーを手に入れたので、これよりお菓子作りがはかどりそうです!



JCHO徳山中央病院広報誌「Smile」 発行/JCHO徳山中央病院 direction & design/しるまぐらフレイブス writing/小野理枝 photo/Photo Office MOTHER LEAF

Tokuyama Central Hospital  
**Smile** [スマイル]

地域のみなさと『JCHO徳山中央病院』をつなぐ  
コミュニケーションマガジン

ご自由にお持ち帰りください

vol.014  
Spring.2021

P1-2

**2020年を振り返って**

院長 那須 誉人

Hello! 部署訪問 P3

**外科病棟**

認定・専門看護師 P4

がん化学療法看護認定看護師  
國次 葉月

<Pick up!> P5-6

地域の医療・福祉・介護をつなぐ架け橋

**地域連携・相談室**

よろず相談室 P6  
スペシャル

表紙のはなし:フレッシュスマイル! P7

臨床検査技師 峰 基樹 医事課 野々村 美音

旬食材で健康レシピ P7

**さっぱりレモンの豚しゃぶサラダ**  
管理栄養士 三好 智春



旬食材で 栄養管理室が発信!

**健康レシピ**

管理栄養士

みよしちはる  
**三好 智春**



玉ねぎは免疫力を高め、動脈硬化を予防する硫化アリルが豊富。ビタミンB1の吸収を高める作用もあるため、豚肉と一緒に食べるより効果的です。硫化アリルは熱に弱いので、甘みが強く辛みの少ない新玉ねぎは、生のまま食べるようにしましょう!

no.14 さっぱりレモンの豚しゃぶサラダ

材料 (2人分)

- 豚肉しゃぶしゃぶ用...100g
- 新玉ねぎ...1個
- パプリカ(赤・黄)...各1/3個
- きゅうり...1/2本
- オリーブオイル・大さじ2
- レモン果汁...大さじ2(酢でもOK)
- A 砂糖...小さじ1
- 塩...小さじ1/3
- コショウ...少々
- レモンの皮...お好みで



作り方

- レモンの皮を千切りにし、Aの調味料と混ぜておく。
- 鍋に湯を沸かし、沸騰したら豚肉を茹でて、火が通ったらザルにあげる。粗熱が取れたら4~5cmの大きさに裂いておく。
- 新玉ねぎとパプリカは薄くスライス、きゅうりは千切りにする。
- ボールに②と③を入れて、①を和えれば完成

**ご感想・ご意見を募集しています**

誌面に対するご感想やご意見、とりあげてほしいテーマがありましたら、①氏名②住所③年齢④性別⑤ご感想などをご記入のうえ、下記宛先までお便りかメールでお送りください。

○個人情報取り扱いについて  
個人情報、は今後の誌面づくりの参考のために使用し、使用後は編集部が責任をもって破棄いたします。

〒745-8522  
周南市孝田町1-1  
JCHO徳山中央病院 総務企画課 宛

QRコード



メールご利用の方は、コチラから→

**編集後記**

年が明けてあつという間に2月になりました。2月3日は立春、暦の上ではもう春ですね。そんな季節の変わり目に、邪気を払って無病息災を願う節分。みなさんは豆まきをしたり恵方巻きを食べたりされたでしょうか? ここから本格的に寒い日が多くなります。体調管理には十分お気をつけください。(勝津)

--- あて先 (切ってハガキに貼ることができます) ---

# 2020年を振り返って

2020年を振り返りますと正にコロナに振り回された1年でした。

人類がこれまで度々感染症の大流行を経験してきたこと、パンデミックも起こりうる可能性が有ることも充分理解していましたが、まさか自分自身がそれを目の当たりにするとは思ってもみませんでした。昨年末に中国の武漢で発生した報道を受けた時、約1年後もこれほど世界中に感染症が蔓延することは想像もできませんでした。未知のウイルスが出現した時点では新たな病気に対する知識もなく、治療法も確立できない時期があることを認めなければなりません。そしてその時点では現実的に可能な対策をできるだけ早期に迅速に行うことです。常に冷静に正しく恐れることは必要ですが、ひたすら感染症の恐怖を煽ることは厳に慎むべきです。

【昨年の教訓】今回特感に感じたのは『危機管理』という点です。COVID-19感染症の蔓延は正に非常時であり、非常時に平時の対応しか出来ないか、非常時には非常時の対応ができるかが今後の一番の課題ではないでしょうか。この1年は職員の皆様にとっても一生忘れられない1年になると思いますし、私にとっても鮮明に徳山中央病院の地域医療に対する責任を再確認した1年でした。

【COVID-19感染症の経緯】令和2年1月16日厚労省の国内初COVID-19感染者の確認発表後、2月には大型クルーズ船ダイヤモンドプリンセスの乗客乗員の集団感染、3月3日には山口県初の感染者が下関で確認されました。4月4日には周南医療圏で第1例目のCOVID-19感染者が確認されました。当院は感染症指定病院として12床の感染病床を有し、周南医療圏、柳井医療圏、岩国医療圏の感染症患者様をお預かりする責任があり多くの感染患者様を受入しました。

【徳山中央病院の対応】病院のCOVID-19感染症対策としては、3月4日より入院患者様への面会を中止、発熱外来の設置、COVID-19感染症との鑑別が必要な患者様の病床を確保、感染症病棟でCOVID-19感染症疑い患者様のPCR検査、隔離入院と治療を行いました。さらに全国の院内感染状況から、無症状のCOVID-19感染者の入院を防ぐことは现阶段では不可能と判断し、5月1日“COVID-19感染症院内感染発生時のマニュアル”を作成、配布。その直後5月3日に山口県第35例目と37例目、の2例は当院内での院内感染と判断されました。幸い山口県、周南環境保健所、入院患者様、当院職員等皆様の御尽力で6日までに迅速にPCR検査を実施でき、職員及びその濃厚接触者等の感染が否定され、7日の連休明けには病院を正常通り開院することが可能となりました。上記の期間中全職員が一丸となり一般外来、入院治療、手術、休日夜間の救急外来等病院の機能を維持することが出来ました。これは当院の地域医療に対する責任を十分に自覚した職員の皆様の努力の賜物です。この紙面を借りて改めて御礼申し上げます。また多くの地域の皆様より頂いたご支援に対しても御礼申し上げます。

【ポストコロナに向けて】今はCOVID-19感染症の終息の見えない時期ですが、歴史の教訓より感染症は必ず終息します。そして今後感染症とは別に少子高齢化、人口減少は一層拍車がかかり、医療の世界での地域医療構想の実現に向けた動きも再び加速します。この1年間に徳山中央病院のポストコロナ時代に備える準備も着々と進んでいます。以下簡単に列挙します

- 1) 乳がんの専門医、指導医の赴任を受け“乳腺外科”の新設。
- 2) がんゲノム医療連携病院の指定を受け遺伝子診療科

を新設、がんゲノム診療を開始。

- 3) 新たに“内視鏡専用手術室”を増設し、本年4月より運用開始。また前立腺癌だけに行っていたロボットを用いた“ダビンチ手術”の適応の拡大を目指し腎癌、直腸癌の手術を開始。
- 4) がん診療連携拠点病院として放射線治療医専門医の赴任を受け、腫瘍制御率の向上や、合併症の軽減が期待できる長年の念願であった強度変調放射線治療（IMRT）を開始。
- 5) 災害拠点病院として近い将来発生する可能性が高い南海トラフ大地震等に備えて災害時も地域の医療を守る、“災害に強い新棟”の設計に着手。
- 6) 看護師の“特定行為研修”を強化、認定看護師の育成。
- 7) 病院の健全経営を確固たるものにするべく材料費等の見直しを開始。

COVID-19感染症は今後もしばらく続くことが想定され、決して気を抜けない状態が続くとの覚悟が必要です。これに打ち勝つには、いかなる状況でも冷静に各自の責務を誠実に果たすことが最も肝要です。今後も共に感染終息の日まで頑張りましょう。1年間本当にご苦勞様でした。

JCHO徳山中央病院  
院長

那須 誉人



## 外科病棟

### 部署データ>>

- ✓ 外科医師 .....9名
- ✓ 看護師 .....37名
- ✓ 看護補助者 .....5名



### 病気を治すだけでなく

### 患者さんに必要な援助も考える。

外科病棟はたくさんのスタッフを抱えた賑やかな大家族です。病床数は55床で、平均患者数53人、病床利用率96%、平均在院日数12日(令和元年度データ)で、診療科が外科のみの単科の病棟です。年間手術件数は約1,300件、そのうち緊急手術が全手術件数の20%を占めています。原因疾患の1位は大腸がん、2位は胆石症、3位はヘルニアです。大腸がんについては、ストーマ造設手術も増えており、患者さん1人に対して看護師2人という手厚いサポート体制をとっています。皮膚・排泄ケア専門の原田 清美認定看護師(vol.12号掲載)の指導のもと、経験のある先輩看護師が後輩看護師に指導を行い、患者さんの病状だけでなく、生活背景も踏まえたストーマケアを行っています。患者さんから「○○さんは今日の勤務何?」「○○さんと次のストーマの交換は△日にするの」等、担当看護師を直接ご指名いただけることは、看護師みんなが患者さんとの距離を縮めて丁寧に看護をしているからだ嬉しく思っています。

日々病棟のどこかで「中村さ〜ん」と声が聞こえます。昨年からは病棟に中村 幸枝理学療法士が専従で勤務されることになり、術前からがんリハビリテーションの介入を行うことで、術後の早期離床に大きな影響を与えています。また、廃用症

患者さんが早期に自立できるようにスタッフが全員が一丸となってサポートしています!

なかむら ゆきえ  
理学療法士 中村 幸枝

候群や褥瘡の予防対策も図れていると感じています。疾患や高齢などの理由から、嚥下が難しい患者さんも多く、言語聴覚士の介入も必要不可欠です。このように、多くのリハビリスタッフの力によって、患者さんの日常が守られています。

入院患者さんの中には、認知症や一人暮らし、社会的に生活が困難な方など、さまざまな問題を抱えている方もおられます。そこで、週に1回、病棟スタッフをはじめ地域連携スタッフ、リハビリスタッフ、外科外来看護師、栄養士等が集まり、各チーム合わせて約1時間の退院支援・リハビリカンファレンスを行い、患者さんにとって「治療と同時進行で必要な援助」を話し合っています。受け持ち看護師だけで抱え込むのではなく、チーム全体で情報を共有し、思考を巡らせ、患者さんにとっての最善を丸ごと考えています。

最近は、患者さんからお礼のメッセージをいただく機会が増えており、それがスタッフのさらなるモチベーションの向上につながっています。「元氣」と「やる氣」と「優しさ」の3つを大切に、これからも外科病棟のスタッフとしての使命を果たしていきたいと思っています。



チームワークを大切に、楽しく仕事できるように心がけています!

はたの ともみ  
看護師 波多野 友望

## 認定看護師

### Certified Nurse

徳山中央病院では、現在14名の認定看護師が活動しています。今回は、がん化学療法を専門とする認定看護師をご紹介します。

### 認定看護師 って?

特定の専門分野における看護のスペシャリストです。看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める615時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格した者のこと。合格後は、5年ごとに更新審査が行われます。

### がん化学療法看護認定看護師

### くに つぐ は づき 國次 葉月

### Q どんな役割を担っていますか?

A がん化学療法看護認定看護師の役割は、薬物療法(抗がん剤治療)を受ける患者さんが、安全かつ適切に治療を受けて、セルフケアを実践できるように援助することです。近年のがん治療では、正常な細胞にも作用する従来の抗がん剤だけではなく、がんの原因になっている特定の分子だけを選んで作用する「分子標的薬」、自身の免疫ががん細胞を攻撃する力を保つよう開発された「免疫チェックポイント阻害薬」など新しい薬が開発されており、当院でもこれらの薬を使った数百種類の治療が行われています。薬にはそれぞれ特徴があり、点滴の方法や副作用の違い、使用上のコツがあります。がん化学療法看護認定看護師は、専門的な知識と経験を基にこうした薬の投与や管理、副作用対策を行います。医師は治療の指示をし、薬剤師が調剤していますが、実際に点滴するのは看護師。だからこそ、安全に確実に責任をもって取り組んでいます。

### Q やりがいを感じる時は?

A 日頃は、外来化学療法室でがん以外にも特別な取り扱いが必要な薬の治療を6人の看護師で行っています。がんの薬物療法は、手術や放射線療法に比べて数カ月から数年と長い時間がかかるため、最近では入院ではなく外来で薬物療法を受けられる方が増えてきました。病院の外でがん患者さんをお見かけすると、病氣と付き合いながらも普段の生活がそこにあることを実感し、やりがいを感じます。また、薬物療法は他の治療とは違い、全身に効果があるため、ある程度の副作用が起こります。患者さんはこの副作用と上手に付き合うための「がんばり」が必要になってきます。私たちは、患者

さん自身が前向きに治療を受けることができるように心がけています。

### Q 大切にしていることは?

A 体にあまり負担をかけない治療を希望される患者さん、がんの進行を何とか食い止めたいと積極的な治療を希望される患者さんも、それぞれその人らしく今を生きておられます。がんと共に生きる患者さんにとって、抗がん剤治療を継続するのは大変なこと。ときにはつらいこともあると思います。患者さんの力になりたいと考えて認定看護師になったのですが、「がん」は厄介な病気で、治療が思うようにいかない場合もあります。だからこそ、薬物療法を安全・安心・確実にに行い、患者さんの持つ力を最大限に発揮できるようにすることで、がんとうまく向きあう力を支えていきたい。患者さんやそのご家族との対話を続けながら、前向きに生きていくための支援をしたいと思っています。これからも、すべての出会いを大切にしながら、「生きたい」と願い懸命に治療を頑張っている患者さんの力になれるように、看護師、医師、薬剤師等とともに精一杯支えていきます。



### 國次看護師のFavorite!

御朱印集めが趣味で、御朱印帳を何冊も持っています。コロナの影響で最近なかなか出掛けることができませんが、次は「アマビエ」の御朱印を拝受したいと心待ちにしています。



Pick up!  
ピックアップ!

地域の医療・福祉・介護をつなぐ架け橋

# “地域連携・相談室”

当院では、患者さんに安心して治療や療養生活を送っていただくために、地域包括支援部 地域連携・相談室を設けています。そこで働く人たちが日頃どんな想いでどんな仕事をしているのか、専任スタッフの3人にお話を聞きました。

どんなことでも  
お気軽に  
ご相談ください!

社会福祉士  
ささき なつみ  
佐伯 夏未

地域包括支援部  
副看護師長  
たかはし あきこ  
高橋 映子

社会福祉士  
よしだ ゆうへい  
吉田 侑平

— 徳中の地域連携・相談室とはどんなところですか？

吉田 地域のみなさんが必要な治療や支援をスムーズに受けられるように、他の医療機関をはじめ福祉施設や介護サービス機関と連携を取っている窓口です。業務は、主に「前方支援」と「後方支援」の2つに分かれています。前方支援は、他の医療機関からの紹介患者さんの入院や転院、受診や検査予約の調整、医療機関との連絡調整、かかりつけ医の紹介など。後方支援では、入院患者さんの退院や転院に向けた支援、活用できる社会制度の

情報提供などを行っています。

高橋 平成19年に開設した当初は、室長を含む事務員3名の部署でしたが、平成21年に看護師1名が配属され、その3年後に社会福祉士が1名配属されました。現在は、副院長がトップを兼務し、看護部長の管理の下、看護師2名、社会福祉士6名、事務員4名の計12名で構成されており、院内の各職種と連携をとりながら、切れ目のない医療・看護・介護サービスが提供できるように支援・調整しています。

医療のギモンに  
お答え!

## 第14回 よるず相談室 スペシャル!

問. 高齢になり、徳中に通院するのが困難になってきました。とはいえ、定期的な診療や処方箋は必要ですし…。どうすれば良いでしょうか？

答. 高齢化に伴い、こうしたご相談が増えてきています。そこで当院では、日頃から何でも相談できるような「かかりつけ医」を見つけておくことをおすすめしています。かかりつけ医とは、みなさんのご自宅や勤務先の近くにあり、病気や健康に関することを相談できる地域の開業医のこと。体調の変化で気になることを気軽に相談できますし、新たな病気がかかったときも、体質や過去の病歴などと照らして診察してもらえます。また、病気の初期段階から関係性を築いておくことで、介護や在宅診療などの相談もしやすくなります。



— 具体的にはどんな相談が寄せられていますか？

吉田 「治療を受けたいけれどお金のことが心配」「この前、生きるか死ぬかを体験したばかりで退院後の生活が不安」「介護保険の手続きが分からない」

など、病気による不安に直面した患者さんやご家族からさまざまな相談が寄せられています。

高橋 以前は「退院後に自宅で医療的なケアができるか不安」といった患者さんのご家族からの相談が多かったのですが、最近「認知機能の低下などで患者さんがお薬をきちんと飲んでいない」「一人暮らしで通院が難しい方に訪問看護が必要」など、現場スタッフからの相談も増えている印象があります。問題をキャッチするタイミングも格段に早くなってきていますね。

— 仕事をする上で大切にされていることは？

吉田 みなさん困っている状況で相談に来られているのが前提です。なので、相手の話を否定せず、常に受け入れる姿勢で聞くことを意識しています。そして、考えを押し付けるのではなく、患者さんやご家族と一緒に考える。できる手は全て尽くして、最善の方法を提案する。私たちが介入することで、患者さんやそのご家族自身が「納得のいく答えを出せた」と前向きに捉えて、いい経過を辿れるようにしたいと思っています。

佐伯 やはり一番大事なのは、患者さん自身の思いや価値観。そこに寄り添うカタチで支援したいと思っています。昨年から新型コロナウイルス感染症の流行により、ご家族が患者さんに面会できる機会がなくなりました。ご家族に入院患者さんの様子を丁寧に伝えることで、安心して相談できる雰囲気づくりに努めています。

吉田 生活の質が落ちれば、病気の治療にも支障が出てくるため、なるべくスピーディーな対応を心がけています。ただし、当院は急性期病院としての治療が優先になります。介護保険や身寄りのない方の成年後見制度といった手続きを、次の医療機関へ

バトンタッチすることもあるため、日頃からコミュニケーションを大切にしながら連携をとっています。

高橋 実際に患者さんをケアする病棟や外来の看護師、薬剤師、リハビリスタッフなどと、定期的なカンファレンスを通じた情報共有も大切にしています。例えば、急性期から在宅へ戻られた患者さんの場合、リハビリスタッフがベッドの高さや手すりの位置などのアドバイスをくれることもあります。患者さんにとってどんな療養環境を整えるのがいいのか、どんな支援が必要なのかを話し合い、切れ目のないケアを提供できるように心掛けています。

佐伯 一番嬉しいのは、退院された方が「今はこんな生活を送っているよ!」と報告してくださる瞬間です。家やお金

がなくて劣悪な環境で過ごされていた患者さんが、人間らしい環境で暮らせるようになったとき、支援させていただいて本当に良かったなど大きなやりがいを感じますね。

— 最後に、地域のみなさんへメッセージをお願いします!

佐伯 まだ地域連携・相談室の存在自体を知らない方もいらっしゃると思うので、もっと多くの方に知っていただきたいですね。医師や看護師に「こんなことを相談して大丈夫かな」「忙しそうなので申し訳ない」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私たち医療ソーシャルワーカー(医療相談員)が何でもご相談に応じますので、いつでもお気軽にお声がけください!

吉田 どこに相談すればいいのかかわからずお困りのとき、お話を聞くだけでも力になれることもあると思うので、ぜひ遠慮なくご相談いただきたいです。

高橋 病床数がパンパンで苦しいとき、地域の医療機関に患者さんを受け入れてもらい助けていただきました。おかげで急性期病院としての機能を維持することができています。これからも、急性期、回復期、療養期といったそれぞれの機能を最大限に発揮して、周南地域全体のワンチームとして地域のみなさんのために連携していけたらいいなと思っています。



西館1階に  
あります。

## 地域連携・相談室は、

地域みなさまと当院をつなぐ地域医療の窓口です。

退院・転院支援や、活用できる社会制度の情報提供、患者さんやご家族のご心配事など、誰に相談していいかわからなくて困っていませんか? どんなことでもかまいません。まずはお気軽にご相談ください。

